

平成 28 年 3 月 15 日

広島県 地域振興局 都市圏魅力づくり推進課
都市機能調整 担当監 高橋 龍二 様
広島市 市民局 文化スポーツ部
スポーツ振興課 課長 澳 和明 様
広島商工会議所
地域振興担当部長 下平 雅文 様

株式会社サンフレッチェ広島
代表取締役会長 久保允誉

湯崎広島県知事・松井広島市長・深山広島商工会議所会頭との面談開催のお願い

弊社より 3 月 10 日付け書簡「平成 28 年 3 月 8 日付けで貴作業部会から受領した『サッカースタジアム建設案に対する確認について（依頼）』に関する確認のお願い」（以下「3 月 10 日付け書簡」）を貴作業部会にお送りして後、本日まで徒に日々が過ぎております。

3 月 10 日付け書簡でも申し述べました通り、弊社からご提案したプランは、1 年以上前に終了した官民サッカースタジアム検討協議会（以下「協議会」）における議論が、スタジアムの利用者の視点が欠如したバランスを欠いたものであるという認識のもとに策定したプランでございます。

しかるに、本書簡にて私は、サッカースタジアム建設にあたって湯崎広島県知事・松井広島市長・深山広島商工会議所会頭と株式会社サンフレッチェ広島の経営を預かっております私とが会談を持たせていただくことをご提案申し上げます。サッカースタジアム建設の是非とその中身について、腹藏なく忌憚のない意見を交わし合い、今後の方向性の道筋を検討する場を設けることが最善ではないかと考えるからです。そして、その内容をすべてメディアに公開すべき責務が会談出席者全員にあると考えます。

そもそも、株式会社エディオンが弊社のスポンサーに加わり、私が弊社の経営に携わることとなりましたのは、当時の藤田広島県知事と平岡広島市長からクラブ運営に関しての全面的なサポートというお約束をいただけたことが前提となっております。そのお約束があったからこそ、弊社はこれまで、赤字体質の改革に取り組みながら、クラブの強化に邁進してまいりました。

今回、私からご提案申し上げる 4 者会談さえ開催されないまま、また、貴作業部会からの「確認」さえも当社で行えないまま、今月末にも湯崎広島県知事・松井広島市長・深山広島商工会議所会頭による会談が行われ、貴作業部会の「追認」が行われてしまうようであれば、弊社のみならず広島県民・広島市民・全国のサポーターに対する重大な裏切り行為と言わざるを得ないものと大変憂慮いたします。

貴作業部会におかれては、大変お忙しいところとは存じますが、是非とも、クラブの監督・選手・サポーターをはじめとする多くの方々からのご賛同/ご意見/ご要望を踏まえられ、湯崎広島県知事・松井広島市長・深山広島商工会議所会頭と私との会談をご開催くださいますようお願い申し上げます。

そして、その会談が実現いたしましたらば、弊社からの今回のご提案の真意をご説明させていただくのはもちろん、ご臨席の皆様からは、なぜ旧広島市民球場の跡地にサッカースタジアムを建設すべきではないのかについても、具体的なお説明を賜りたく存じます。

先週の弊社からのサッカースタジアム建設プラン公表以降、日に日に弊社にお寄せいただく全国のサポーターや関係者からの期待の声も高まり、サッカースタジアム問題に関する世の中の関心が一層強まっている中、早急にご検討を賜れば幸いです。

以上